

福岡大学 FUKUOKA UNIVERSITY MAGAZINE

学園通信

No.69

特集1 ▶ 咲き誇る未来へ

特集2 ▶ 福大スポーツの挑戦



特集1

咲き誇る



また一步、未来への歩みを
進める学生たち。
この学舎で、一人一人が新しい風となり
輝かしい希望を芽吹かせていく。



未来へ

CONTENTS

- 02 特集1 **咲き誇る未来へ**
- 03 新年度を迎える皆さんへ
- 07 特集2 **福大スポーツの挑戦**
- 08 福大出身のオリンピック
- 09 福岡大学が育むスポーツの今と未来
田中 守副学長(医学・医療・スポーツ・健康・学生分野担当)
- 11 世界を目指す卒業生
7人制ラグビー 走高跳
桑水流 裕策さん 真野 友博さん
パラバドミントン パラ卓球
藤野 遼さん 立石アルファ裕一さん
- 15 トップアスリートを支える卒業生
日本陸上競技連盟 強化普及部 強化育成課
岩瀧 一生さん
- 17 世界を目指す在学生
陸上競技部 サッカー部(男子)
兒玉 芽生さん 井上 健太さん
バレーボール部(女子) 柔道部(女子)
林田 愛佳さん 坪根 菜々子さん
- 19 体育部会紹介
- 21 時代を駆ける先輩たち
株式会社電通九州 小説家
上席執行役員 桐衣 朝子さん
岩切 祥哲さん 漫画家 キリエ
桐衣 奈央さん・知世さん
- 25 就活メモリー
篠栗町立勢門小学校 カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社
養護教諭 九州営業九州Tポイント
戸田 みゆきさん 末増 周さん
株式会社九電工 株式会社JALスカイ九州
福岡西営業所 空港オペレーション部
岡 佑司さん 鶴田 知日愛さん
- 27 ヒポクラテスの系譜
福岡大学病院 福岡大学西新病院
岩崎 昭憲病院長 三浦 伸一郎病院長
- 29 Fukudiary
卒業生の皆さんへ
- 31 INFORMATION
令和2年度学術文化祭開催
学術文化部紹介
- 33 寄付者ご芳名一覧
- 36 ななくま通信

建学の精神

思想堅実・穏健中正・質実剛健・積極進取

教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存
「学部教育」と「総合教育」の共存
「地域性」と「国際性」の共存

学生制作の作品紹介

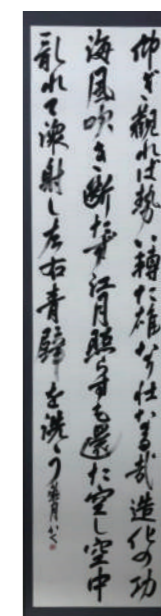
望廬山瀑布
一廬山の瀑布を望む(李白より)

現代語訳

仰ぎ見れば勢いはますます盛ん、まさしく
大自然のなすところ、湖からの風が滝に吹
き付けてやまず、川の月が照らし出そうとし
ても漠然として定まらない。空中に乱れ散
り、左右の青壁を洗う。

この作品は昨年の読売書法展で入選した
作品になります。作品をつくり上げる上で
筆の流れを保つことと行の軸を真っ直ぐに
し、ぶれない様子を意識しました。この
作品を創作できたことは今の自分の糧に
なっています。これからも作品の質を高める
ために日々の練習と挑戦・研究を継続させ
ていきたいと思っております。

書道部 3年次生
小屋松 紫月作



新年度を迎える 皆さんへ



事務局長
米嶋 邦章
YONESHIMA Kuniaki



副学長(医学・医療・スポーツ・健康・学生分野担当)
田中 守 教授(スポーツ科学部)
TANAKA Mamoru



副学長(研究・情報・地域連携・就職担当)
荒牧 重登 教授(工学部)
ARAMAKI Shigeto



副学長(財政担当)
小野寺 一浩 教授(法学部)
ONODERA Kazuhiro



副学長(教学担当)
加留部 善晴 教授(薬学部)
KARUBE Yoshiharu



学長
朔 啓二郎 教授(医学部)
SAKU Keijiro

学生生活ではさまざまな人達と時間を共有してください。長いようで大変短い「限られた大切な時間」であると認識してもらいたいと思います。この限られた時間に何にチャレンジし、何を掴むか、無限に広がる世界で大いに羽ばたいてください。自己成長の場をどこに見いだすかは、正課・正課外活動の至る所にあり、人それぞれだと思います。目標を持ってさまざまなことに挑戦し、自分に自信を付けて社会に巣立ってもらいたいと思います。

まずは今年1年健康であること、その上でさまざまな事に精力的に取り組んでください。自ら学び、積極的に活動する中で、社会で求められる「人間力」と「コミュニケーション力」を身に付けていきましょう。大切なことは、意識することです。学生時代に大きく成長できるかは、皆さん自身にかかっています。また、一年後には、東京2020大会が開催される予定です。スポーツを通じて、在学生、教職員および卒業生が一体となり、福大ブランドを高めましょう。

大学時代は、一生の中で最も基礎学力が身に付く時期です。大学内外での学習を通じて学力を十分に養ってください。単なる結果の暗記ではなく、そこに至るまでの過程が大切です。また、9学部がワンキャンパスに集まっているという利点を生かし、専門分野の異なる学生たちとチームを組んで問題解決する体験や、社会性豊かな人間形成にも取り組み、楽しく充実した大学生を送ってください。

一步踏み出そう。今まで見えなかったものが見えてきます。例えば、これまで読書を避けてきた人は、著者と対話するように本を読んでみてください。きっと新しい発見があるでしょう。これまで避けてきたことにチャレンジすると世界が広がります。学生時代は長いようで短いものです。自分が本当にやりたいことを見つけ、在学中に自分自身をブラッシュアップし、夢の実現に必要な真の基礎的力を修得してください。

大学では色々な教科を学んで知識を修得し、理解することから始まります。そして理解したことを考え、判断して、それをどう使うかという表現力も磨いてもらいたいと思います。さらに、社会の中で人として人間性に富んだ行動ができるようになってください。大学での人との出会いや経験は一生の宝となります。また、海外へも積極的に目を向けてグローバルな人になってほしいと思っています。

福大生であることに誇りを持ち、福岡大学を好きになってください。皆さんが福岡大学に入学した理由はさまざまだと思います。なぜ福岡大学に入学したのか、その目的を常に心に描いて、学生生活を有意義なものにしてもらいたいと思います。私は、物事の成功には、夢があり、計画があり、行動することが大切だと考えています。皆さんが夢を実現できるよう、私たちもさまざまな取り組み・環境の整備を通じてサポートします。





スポーツ科学部長 米沢 利広 教授
YONEZAWA Toshihiro



薬学部長 三島 健一 教授
MISHIMA Kenichi



医学部長 小玉 正太 教授
KODAMA Shota



経済学部長 姜 文源 教授
KANG Moonwon



法学部長 山下 恭弘 教授
YAMASHITA Yasuhiro



人文学部長 山縣 浩 教授
YAMAGATA Hiroshi

大学生活では、さまざまなことにチャレンジし、自分の可能性を広げてください。特に、クラブ活動や学内外のイベント、ボランティア活動などに参加することは、他者との関係の中で自分を見つめ、感性を磨くことにもなります。一年後に、東京2020大会が開催される予定です。スポーツに関心や興味を持つだけでなく、多くの外国人の方々との交流を深め、豊かな人間形成につなげてください。

大学生の特権は自由に使える時間が多いことです。福岡大学にはたくさんの充実した教育・研究施設や多様な人との出会いもあります。これらを有意義に活用してください。失敗を恐れずに多くのことにチャレンジし、その中で自分の周りで何が起きているかを認識し、相手の気持ちや物事の本質に「気付く力」を身に付けてください。考えることも大切ですが、一步を踏み出して行動することがより大切です。

医療を取り巻く社会情勢は年々厳しくなり、在学中から今後必要とされる医師・看護師像を意識して生活する必要があります。学生時代は医療人としての自覚を育む時期でもあり、規則正しい生活習慣や日々の勉学の姿勢を厳守してください。医学教育に関しては記憶型から思考型へ変化していますので、応用力の付く復習が肝要です。医学の対象は人であり、福岡大学が全国で高い評価を得ている「コミュニケーション能力・人間力」をぜひ在学中に身に付けてください。

「ムーアの法則」というものがあります。現在の時代、日々行われている技術進歩は、新しい商品の性能を2年間で倍増させているという経験的な法則です。技術進歩とともに世界経済も日々変化しています。大きく変化する社会では、新しいことを継続して吸収する力が必要です。卒業後も学び続けられる人になれるよう、多彩なカリキュラムのある本学で学ぶ楽しさを体験してください。また、クラブ活動やアルバイトなどを通じて幅広く経験を積み、人間力を育ててほしいと思います。

自分の考えを正確に伝えられる、この当たり前に思えることで、実は難しいことを難しくこなせる人になってください。そのために、本学で法律という難解と思われがちな素材を用いてその適用を説明する、他者を納得させる技術を磨いてください。これはきっと社会人となったあなたの有益な才能になります。また、大学にいる人の数の多さを活かしてください。多様な人材がいますので、自分とは違った人との交流を密にしてください。これはきっと発想の転換につながります。

人間は易きに流れる存在です。しかし、苦労も努力もしないで毎日過ごしたのでは成長は望めません。大学生活で何か一つ、自分にとって困難と思われることに挑戦してください。それを成し遂げたなら、社会に出たとき、大きな自信となります。例えば、中央図書館の蔵書約200万冊全ては無理でしょうが、開架で手に取れる[818]で始まる図書全て、研究書であろうと、辞書であろうと、図録であろうと読み尽くすなどはその一つでしょう。



図書館長 永星 浩一 教授(商学部)
EBOSHI Koichi



学生部長 梶井 昌邦 教授(経済学部)
KAKOI Masakuni



教務部長 檜垣 靖樹 教授(スポーツ科学部)
HIGAKI Yasuki



工学部長 森山 茂章 教授
MORIYAMA Shigeaki



理学部長 永田 潔文 教授
NAGATA Kiyofumi



商学部長 中川 誠士 教授
NAKAGAWA Seishi

財産は失うことがあります。大学で学んだ知識や培った経験、そして人間関係は誰からも奪われることはありません。全てを失うような挫折があっても、いくらかも再起ができるような知識や経験、人間関係を本学での学生生活で積み上げてほしいと思います。講義や実験・実習はもとより本学でのさまざまなイベントに積極的に参加しましょう。そして、図書館を学びの場として活用しましょう。

学問や社会情勢等に大いに関心を持ち、興味が湧くものを探してください。それが見つければ、スマホばかりでなく、本や雑誌、友人や教員との議論等、さまざまな手段を活用し、深掘りしてみましょう。こうした経験を通して初めて、他者の意見に頼るのではなく、自らの考えや評価基準で物事を判断し、行動できる能力を身に付けられます。先の見えない世の中では、こうした素養をもつ人材がますます求められているのではないのでしょうか。

学びの原点は、“なぜ?”から始まります。不思議に思うことを、一つひとつの事実を積み重ねることで解決していきましょう。常識にとらわれることなく、自分の考えを論理的に構築し、多くの人と情報交換をする中で、多様な価値観を理解する力と共有する力が育まれることで、目まぐるしく移り変わる社会環境の変化に対して、柔軟に対応する力と斬新なアイデアで令和の時代を拓く力を磨いていきましょう。

高い専門性を身に付けるには、基礎となる考え方を十分に理解し、着実に知識を修得していくことが必要です。そのためには、さまざまな問題や課題の答えを導くプロセスが重要ですので、「学び続けていく」姿勢を身に付けてください。また社会においては文化や歴史などの教養も大切になってきます。幅広い教養と人間力を兼ね備え、人類の幸福や福祉、地球環境などを考えることができる技術者を目指してください。

興味を持ったこと、例えば勉学や読書、スポーツ、アート、交友、ボランティア、アルバイト、旅行等に一生懸命に取り組んでみましょう。一生懸命に取り組んだことだけが、成功しても失敗しても自分の成長の糧となります。時にはスマホを横に置いて、他人の価値観で動かされていないか、静かに反省してみましょう。そして自分が何をしたいのか、何者であるかを意識できるようになりましょう。

大学で得られるべき能力が、技術や社会情勢の変化次第で陳腐化してしまうものであるならば、4年間も時間を費やす甲斐がありません。大学ではもっとも長持ちのする能力が修得されるべきで、それはおそらく問題を発見し解決する能力、つまり考える力です。考えることは言葉を通じてしか行われえませんが、沈黙する前に読む、書く、聞く、話すを繰り返すことが考える力を付けるためには必要です。それを行う最適の場がゼミナールです。



福大スポーツの挑戦

FUKUOKA UNIVERSITY SPORTS



多くの体育部会が、強豪として好成績を残している福岡大学。
長い歴史の中で、プロスポーツ界や世界の舞台で活躍する
トップクラスの選手を数多く輩出してきました。
勝負が決まるその一瞬に、全てをかけて挑む選手・学生たち。
競技にかける熱い思いは、昔も今も、そして未来も
変わることはありません。

1964年以来となる本国開催の東京2020大会を控えた今、
世界のトップを目指す卒業生や在学生に
福大スポーツの魅力や、自身の挑戦について、話を聞きました。

福大出身のオリンピック



セーリング
佐藤 麻衣子
SATO Maiko

シドニー(2000・ヨーロッパ級23位)
アテネ(2004・ヨーロッパ級24位)



バレーボール
中野 尚弘
NAKANO Naohiro

東京(1964・銅)
メキシコ(1968・銀)



サッカー
永井 謙佑
NAGAI Kensuke

ロンドン(2012・4位)



走高跳
片峯 隆
KATAMINE Takashi

モスクワ(1980・日本不参加)



7人制ラグビー
桑水流 裕策
KUWAZURU Yusaku

リオデジャネイロ(2016・4位)



ヨット
三船 和馬
MIFUNE Kazuma

モスクワ(1980・日本不参加)



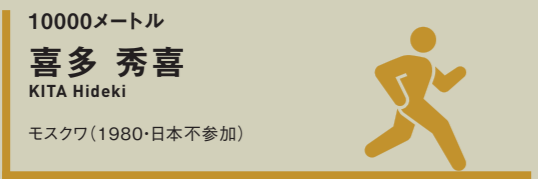
ハンマー投
岡本 登
OKAMOTO Noboru

ローマ(1960・13位)
東京(1964)



ヨット
松山 和興
MATSUYAMA Kazuoki

ミュンヘン(1972・フィン級27位)



10000メートル
喜多 秀喜
KITA Hideki

モスクワ(1980・日本不参加)



走高跳
佐藤 恵
SATO Megumi

ロサンゼルス(1984)
ソウル(1988・11位)
バルセロナ(1992・7位)



ヨット
高木 裕・山本 悟
TAKAGI Yutaka / YAMAMOTO Satoru

ロサンゼルス(1984・ヨット470級11位)

※監督・コーチでの出場分は掲載していません。

福岡大学が育む スポーツの今と未来

授業や体育部会の活動を通して、長年アスリートの育成や指導者の育成に力を入れてきた福岡大学。本学にとって「スポーツ」とは何か。田中副学長に話を聞きました。

**優秀な選手を生み出す
福岡大学の強さと秘訣**

昔から「九州の大学スポーツ」と言えば福岡大学と言われるほど、スポーツ分野で隆盛を誇ってきた福岡大学。プロスポーツ選手や日本代表選手、日本記録を出した選手を数多く輩出し、現在、サッカーJリーグの永井謙佑選手や阪神タイガースで大活躍の梅野隆太郎選手など、枚挙にいとまがありません。そのような人材が生まれる理由に、「九州

から、全国を制したいと思う選手、またそのような選手を輩出したい指導者の熱意に起因するのではないかと田中副学長は話します。近年、多くの大学がスポーツに力を注ぐようになり、競技大会において福岡大学が涙を飲む場面もありますが、田中副学長は「九州にとどまらず、日本のトップを目指し、さらに世界へ羽ばたくという大きな目標を持つてほしい。本学はまだまだ全国に名を馳せる実力を秘めているのだから」と期待を込めて話します。大学の使命である教育・研究・医療に加え

スポーツ文化の醸成と

選手・指導者の育成に向けて



副学長(医学・医療・スポーツ・健康・学生分野担当)
田中 守 教授(スポーツ科学部)

「スポーツ」もさらなる発展を目指したいと話す田中副学長。昨今は特に「スポーツ」と「科学」の研究が進み、練習や試合でのデータ分析が高度なレベルで実施され、戦略や戦術にも生かされています。スポーツ科学部を擁する本学は、「どうしたら強くなれるのか」というテーマのもとあらゆる角度から分析を試みることができ、選手育成の大きな力となっています。現在スポーツ科学部で教鞭を執る片峯隆教授は本学の卒業生で、走り高跳びの元日本記録保持者です。好記録を出せた理由につ

いて、当時の体育学部の先生方がスポーツ科学、生理学、心理学、指導哲学などの観点から分析し、学会で発表しています。片峯先生はその後、指導者として佐藤恵選手(口サンゼルス1984大会、ソウル1988大会、バルセロナ1992大会出場)を育成。さまざまな機器が揃った現在のスポーツ科学部では、さらに詳細なデータを取り、踏み込んだ分析ができるでしょう。田中副学長は今後ますます「スポーツ」と「科学」の連携が重要となり、その連携が本学に優秀な選手、指導者を引き寄せる大きな要因になると考えています。

**スポーツの持つ力を信じ
未来に進んでいく**

スポーツは「健康」と「医療」においても重要なものであり、この結びつきは大学の地域貢献・社会貢献に大きくつながっています。例えば故・田中宏暁教授が提唱した「スロージョギング」は今では福岡県民運動の一つとされ、全国各地で教室が開かれて健康寿命の延伸に役立っています。

東京2020大会は一年後に延期となりましたが、世界に誇るスポーツの祭典に関わる選手たちを支援していきたいと話す田中副学長。一方で今後の選手育成においても意識を巡らせ「さらなる未来に向けて支援体制の強化を図りたい」と話します。4年に1度という限られた大会で、さらに出場できる選手は日本から1〜2人。団体競技でも数えるほど。そんな選手を本学から輩出するためには「幼少期からの育成が大事」だと言います。本学はキッズスポーツ教室やふれあいスポーツフェスタなどを開き、多くの子どもたちが参加しています。田中副学長が指導するハンドボール部ではキッズスポーツ教室を約20年続けており、参加者の中から本学に進学した選手もいるそうです。

さらなる結果へとつながっていきます。田中副学長は出会いの機会を多く設け、選手として、また指導者として成長していく学生の姿を見守っていきたくと考えています。「スポーツの魅力の一つは、選手とその周囲の人々をつなぐ力です。大学ラグビーやサッカーの早慶戦・早明戦のように、本学の体育部会の試合に多くの学生が押し寄せ、皆が一斉に選手に声援を送る。そうして本学がより一つになる。それが私の願いです。スポーツにはその力があると信じています」

また、柿本真弓教授が推進している「女性対象のダンス教室」は高齢の女性に評判が高く、参加者は皆イキイキとした表情を見せています。このようにスポーツは選手の強化だけでなく、それまで運動から遠ざかっていた人の興味を引き、元気にすることができるとです。この他にも医学部と共同で障がい者サッカーや車椅子バスケットボールなどのイベントを行っており、スポーツを通じて社会に貢献する存在としても地域から注目されています。

さらに、優秀な選手を育てるには優秀な指導者が必要です。「本学の卒業生は指導者として成功している人が多い」と話す田中副学長。大学時代に大記録を残したり、優勝していなくても、指導者として中学・高校のチームを率い、優秀な選手を育てています。「高校ハンドボールの九州大会で好成績を収める高校の指導者はほとんど本学の卒業生だった」と、先生は笑顔を見せます。本学で指導力や人間力を磨いたことが名指導者への道につながったのかもしれない。

指導者をはじめ、人との出会いは選手にとっても大きな影響を与えます。ときに刺激となり、ときに励まされ、切磋琢磨することで、

運動が苦手でもスポーツ観戦は好きだという人は多いでしょう。田中副学長は「観るスポーツ」も重要視しています。福岡ソフトバンクホークスの観客動員数は球界屈指であり、野球観戦が観光と化すほどです。「選手たちは見られることで緊張感が増し、試合はもちろん練習にも一段と力が入る。本学の試合や練習でも、ぜひそのような効果を生み出したい。在学生はもちろん、地域住民の皆さんに常日頃から試合や練習を見てもらってはどうか」と提案します。本学で、さまざまなスポーツを観ることができ、そこからスポーツの魅力や競技の面白さが伝われば、選手の注目度も上がっていくのではないかと話します。

指導者をはじめ、人との出会いは選手にとっても大きな影響を与えます。ときに刺激となり、ときに励まされ、切磋琢磨することで、



FUKUOKA UNIVERSITY SPORTS

世界を 目指す卒業生

1964年以來の日本開催となるスポーツの祭典。アスリートへの期待は最高潮に達しています。福岡大学から巣立ったアスリートに、競技への思いと東京2020大会への意気込みを聞きました。

リオの経験を糧に

もう一度あの舞台に立つ

充足感を得た一方で準備のあり方を学んだリオ2016大会

福岡大学2年次生の時に7人制ラグビー日本代表に選出されて以来、10年以上も桜のエンブレムを胸につけ試合に臨んできた桑水流裕策さん。日本の「ミスター・セブンズ」と呼ばれる7人制ラグビーが競技に初めて採用されたリオ2016大会にはキャプテンとして出場しました。幾度となく国際大会を経験してきた桑水流さんですが、5つの輪がはたらくグラウンドに立った時の気持ちは普段の国際大会と全く異なり、「ここで試合ができる幸せを感じた」と振り返ります。喜びと緊張の中で挑んだ第1戦。日本代表は強豪のニュージーランド代表を

破り、これを弾みに予選プール、準々決勝を突破。ベスト4という結果を手に入れました。大会を終え、桑水流さんの心に残ったものは充足感でした。代表チームの国際大会での最高成績は6位。それ以上の成績を取めた経験のないチームが、誰もが認める世界の舞台でメダル獲得という大きな目標に向かったのです。チームは強豪国の試合中のGPSデータを研究し、一丸となって練習を重ね、選手同士で話し合いを続けて入念な準備を行いました。桑水流さん自身は大会で準備してきたものを全て出しきったという充足感を得ましたが、一方でメダル獲得の難しさも学んだのでした。

「努力は無駄ではない」東京2020大会に再チャレンジ

その後代表を退き、所属チームでのプレーに専念した桑水流さん。東京2020大会が近づいた2019年夏、それまで静まっていた闘志が頭をもたげます。「もう一度チャレンジしたい」。新生の代表チームが思うような結果を出せずにいたことも、キャプテンだった桑水流さんの責任感に火をつけたのかもしれない。

「もし東京2020大会のメンバーに選出されなくても、この経験はセカンドキャリアに生きる」と考えました。家族や所属チームの

監督の後押しを受け、現在7人制代表チームの一員として海外合宿やワールドシリーズに参加しています。穏やかな表情の桑水流さんの心の奥にフツフツと沸く情熱。その源は何か？その一つは桑水流さんの「7人制ラグビーの面白さを広めたい」という思いです。7人制は前・後半各7分というスピーディーな試合展開と番狂わせが起きやすいドラマ性が魅力ですが、観戦の機会が少なく、それが人々に伝わっていないと感じています。近年は7人制に専念する選手が増え、各国



7人制ラグビー
コカ・コーラレッドスパークス 所属
桑水流 裕策さん
KUWAZURU Yusaku
〈スポーツ科学部スポーツ科学科 2008年卒業〉
リオ2016大会ではキャプテンとして出場し、チームをベスト4に導く。現在はコカ・コーラレッドスパークスに所属し、フランカーとして活躍中。



代表チームのレベルアップが進んでいます。前回足りなかった「メダルを得るための準備」を十分に行い、東京2020大会という最高の舞台に立つ夢に再度向き合う桑水流さん。その道は決して楽ではありませんが、この言葉がいつも頭を浮かぶそうです。「楽あれば苦あり、苦あれば楽あり」。

苦しみを乗り越えた時、楽しみが待っているはずだ、と。「努力して思うような結果を得られなかったとしても、努力は決して無駄にならないし、努力の過程で得たものはきっと自分の役に立つと信じています」。桑水流さんは清々しい笑顔で語ります。

走高跳
株式会社九電工 陸上競技部 所属
真野 友博さん
SHINNO Tomohiro

〈工学部機械工学科 2019年卒業〉
2019年は全日本実業団対抗陸上競技選手権大会と国民体育大会で2m28cmの自己ベストを記録し、優勝。



充実の設備と、指導者との出会いで能力が開花

小学生の時、スポーツ大会で走高跳を経験し、跳躍の楽しさに目覚めた真野さん。中学・高校と陸上部に所属し、のびのびと競技を続けてきました。将来は就職を意識し技術を身に付けて、専門家として活躍したいと本学の工学部に入部。先に入部していた知り合いの方から、陸上競技部に良い指導者がいると誘われ、大学でも走高跳を続けることにしました。

「ナイター設備など、福大の陸上競技場の充実した設備に驚きました」と語る真野さん

ん。それまでただ「好きだから」という思いで続けてきた走高跳でしたが、オリンピックでもある片峯隆先生の本格的な指導を受け、飛躍的に能力が開花することになります。「技術指導はもちろん、休養のとおり方からメンタルトレーニングまで具体的な指導を受け、自分でも驚くほど記録が伸びました。また、陸上競技部のメンバーも実力があるアスリート揃い。もっと成長したいという気持ちが増え、自然と練習に力が入りました」。

全日本インカレなどの大会でも毎年、上位入賞を果たし、4年次に自己ベストを更新。

「忘れられないのは、片峯先生から『踏み切りはトップレベル』と評価されたこと。まだまだ記録は伸ばせると大きな自信になり、初めて世界を狙う意識が芽生えました」。

日々の練習で力を蓄えてこそ結果を出せる

内定していた九電工でも競技を続けることを決意し、現在は実業団選手として勤務後に練習に励んでいる真野さん。汗を流す場は、今も変わらず母校の競技場です。「引き続き片峯先生にご指導いただいています。九電工は福大OB・OGも多いので選手活動を続ける上で会社の理解が得やすいのも助かっています」。

2019年9月の全日本実業団対抗陸上競技選手権大会と10月の国民体育大会では2m28cmを記録し、自己ベスト更新とともに大会1位に輝きました。「まずは当面の国内大会で優勝すること。そうすれば東京2020大会も夢ではありません」と力強く語る真野さん。世界を視野に入れながらも、生活や練習は「いつも通り」が大切だと言います。「体調管理は普段から気を付けなければなりませんし、練習もやはり基礎が重要。走り込み



や筋トレなど、毎日コツコツと続け、力を蓄えてこそ、1cmの壁を越えることができるんです。応援してくださる先生や後輩、会社家族のためにも、東京2020大会出場を勝ち取りたい。プレッシャーもありますが、自分を信じて練習に励んでいます。何より、跳んだ時の達成感は何事にも代えがたいものですから」とさらなる頂を目指しています。

1cmの壁を越え、

さらなる高みを目指す

仲間の存在を練習の糧に

限界を決めずに突き進んでいく

ブランクを乗り越え 世界ランキング4位に上昇

6歳の時、母の勧めでバドミントンを始め、当初は友人とのラリーが楽しくて練習を続けていた藤野さん。小学4年生から市の大会に出場し、中学・高校ではバドミントン部に入部。健常者と同じメニューに励み、試合に勝



つ喜びを覚えていきました。高校2年時には、日本代表としてアジアユースパラ競技大会にも出場しました。

パラバドミントンが東京2020大会の正式競技に決まると、それまでの「楽しくやればいい」という気持ちが「出場したい」という気持ちに一変。負けず嫌いに火がつき、それまで以上に真剣に競技に臨むようになったと言います。

その後、バドミントンの環境が整い、セカンドキャリアに向けた勉強もできる福岡大学へ進学。商学部での学業に励みながらバドミントン部で練習を続けました。しかし、2年生の時、体の不調にまわれます。当時は薬の副作用等で通学するだけで精いっぱい状態。競技から少し離れることに。そんな中でも「大学生として勉強やプライベートを楽しむ日々を送ることができた」と、藤野さんは笑顔を見せます。

やがて体調が回復すると、それまでを挽回するように練習し、1年間で9つの国際大会に出場。2020年2月のペルー大会では見事優勝を果たし、世界ランキング4位(2020年2月末現在)という好成績を残します。今後は、東京2020大会に向けて「から体づくりをして弱点を克服したい」と、自



パラバドミントン
一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟
強化指定選手
藤野 遼さん
FUJINO Haruka

(商学部商学科 2020年卒業)
右手足が不自由のため、SL4(立位・下肢障害)クラスに出場。2020年2月、ペルー国際大会で優勝。世界ランキング4位。

分と向き合いながらモチベーションを保つていきます。スピードが求められる動作は苦手ですが、粘り強さと抜群のシャトルコントロールが藤野さんの強み。ハンドのある右足の強化を図りつつ、今までの強みを磨いていきたいと話します。

仲間の存在を力に、限界を決めず 誇りになるものを身に付けよう

「練習がづらい日もありましたが、今まで続けてこられたのは仲間がいたから。大学や国際大会で会う仲間たちの頑張っている姿が、練習に向かう原動力になりました」
「私の障がいは、見た目では分かりにくい

TOKYO 2020

一度は諦めた夢 一人の選手の姿に、心が動く

立石さんと卓球の出会いは小学4年生の時。クラブ活動を決める集会で、足に障がいがあるため希望していた文化系クラブの列に素早く並ぶことができず、友達に誘われて入ったのが卓球クラブでした。

「初めてラケットを持つ僕に、卓球経験者の母が球にスピン(回転)をかけることを教えてくれました。足のハンディがあっても工夫次第で十分に戦える。すぐに夢中になりました」

中学、高校では卓球部に所属。動きの激し

いラリー戦を避けるため強烈なスピンを駆使して早めの勝負を仕掛け、健常者とも互角に渡り合いました。やがて障がい者卓球(パラ卓球)の存在を知り、パラ大会への夢も膨らみます。しかし出場権を得るには、国際大会でポイントを重ねて世界ランクの上位に入ることが不可欠。その遠征費に多額の費用がかかることを知り、一度は夢を諦めて就職しました。

ところが、パラ卓球関係者から勧められ「一度だけ」と思って出場した国際大会で、両腕のない選手が肩から先に装具を付けて巧みにプレーする姿を目の当たりにし、衝撃を受けます。「彼のここまでの努力や苦勞を

思うと、涙が止まりませんでした。自分も人の心を動かせる選手になりたい。初めてそう思いました」。



練習に集中するため、また将来のことも考えて、27歳の時に福岡大学へ入学。卓球部で練習に励む一方、英語での会話を楽しむ「イン

グリッシュクラブ」にも積極的に参加しました。

「海外遠征では英語でのコミュニケーションが必須。語彙力は中学レベルですが、英語で話すことに抵抗感はなくなりました。今では遠征に同行するメンバーからも頼りにされています」。

「努力を惜しむな」 恩師の言葉を胸に最終予選へ

リオ2016大会への出場は逃しましたが「可能性はゼロじゃない」との手応えを得て、東京2020大会への挑戦を決意。スポンサーを募り、家族の支援を受けながら国際大会を転戦しました。新型コロナウイルスの影響で大会の延期は決まりましたが、次の大会に備えて常に準備を続けています。「今の僕の身体で、最大のパフォーマンスを発揮できる打法を追求しています。その感覚がつかめれば、もっと球の威力をあげることができると信じています」。

ポイントを稼ぐチャンスだった国際大会が、新型コロナウイルスの影響で中止になる不運もありました。気持ちが沈む時に思い起こすのは、福大卓球部・深町大吾監督の「結果は後から付いてくる。とにかく努力を惜しむな」という言葉です。「努力することは自分のためであると同時に、支えてくれている人たちへの恩返しでもある。そう考えるきっかけになりました」。

紆余曲折だった卓球人生。これまでの全ての経験を糧に、立石さんは最後の戦いに挑みます。

パラ卓球

パラ卓球ナショナルチーム 所属
立石 アルファ 裕一さん
TATEISHI Alpha Hirokazu

(商学部経営学科 2015年卒業)
先天性二分脊椎椎症の影響でつま先に力が入らず、かかどに体重を預けて歩行する生活を送る。全日本ランキング2017~2020年1位。



極め続けた。パラ卓球、

挫折と努力の先に見えた夢舞台

トップアスリートを支える卒業生

世界の頂点を目指し、過酷な練習に励む選手たちを支える人々も、東京2020大会において欠かすことのできない存在。育成・サポート面から東京2020大会を支える卒業生に話を聞きました。

選手たちが100%の力を発揮できるように全力でサポート

大学で尊敬する恩師に出会い
主務や海外を経験して成長



日本陸上競技連盟 強化普及部 強化育成課
岩瀧 一生さん
IWATAKI Issei
〈スポーツ科学部スポーツ科学科 2006年卒業〉
卒業後、日本語学校や高校、特別支援学校の講師を務め、2014年4月から現職。東京2020大会に向け、陸上短距離部門の選手を事務面からサポートする役割を担う。

日本陸上競技連盟に所属し、主に短距離部門のアスリート強化・育成に携わっている岩瀧一生さん。東京2020大会という国際的な大舞台を支える仕事に就くことができたのは「ひとえに大学時代の恩師と陸上競技部の仲間たちのおかげです」と話します。中学校から陸上部に所属し、中学3年時は200m走で全国大会6位という成績を収めました。高校でも陸上競技を続け、3年時に4×100mリレーで団体4位という成績を残した岩瀧さんが福岡大学を選んだのは、「400mハードルで3度の世界大会に日本代表として出場した憧れの山崎一彦さん(現・順天堂大学教授)が、福岡大学スポーツ科学部に教員として着任されると知ったから」と話します。入学後は山崎先生のもとで陸上に打ち込む日々。そんな中3年次に、先輩から「主務」に指名されました。「事務的なことや企画などの面でチームをまとめる役割を担ってみると、多くの人とコミュニケーションを取りながら、チームを陰で



サポートする仕事の面白さを感じるようになりました。「ありがとう」と言われると、もっと頑張ろうと思うタイプだと、主務の仕事を通して気付くことができました」

陸上競技部で意欲的に活動しつつも、授業には休まずしっかり出席し、4年次の夏には早々に卒業を仕上げました。卒業後は高校の体育の教員になりたいと思っていた岩瀧さんは、山崎先生から「時間があんなら、視野を広げるために海外を見ておくといい」とアドバイスされて、短期の予定でカナダへ。そこで偶然にもホームステイ先の家族から「日本語学校で体育を教えてほしい」と頼まれ、卒業してからの1年半、海外で日本語教師として働きました。

帰国後、特別支援学校で講師をしていた2014年2月、岩瀧さんに一本の電話が。山崎先生から「東京2020大会で、選手をサポートするような仕事をしないか?」と声を掛けられたのです。山崎先生は、東京20

20大会の強化普及特別対策プロジェクトチームのディレクターに就任することが決まっており、スタッフ募集の際に声を掛けてくれたとのこと。「教師という仕事しか経験のない私に務まるのか不安もありましたが、自国で開催され名譽ある大会に関われるなど、人生でまたとないチャンス。思い切つてトライすることにしました」。選考を突破し、東京2020大会を目指すアスリートをサポートする立場として携わることになりました。

ジュニア時代から支えてきた選手がメダルをかけてくれた

現在は日本陸上競技連盟に所属し、短距離部門の強化や育成に携わっている岩瀧さん。選手強化のサポートや派遣の手続きなど事務的なサポートを中心としながらも、業務内容は多岐にわたります。例えば、強化委員長などとミーティングを重ねて、大会の代表選考要項の原案を作るといった重要な任務があります。また、海外遠征には渉外担当として同行し、現地での調整から移動の手配などを一手に担います。

「競技会の前には審判が集まるテニカルミーティングに出て、その内容を代表選手団に伝えます。試合中は日本の選手に不利なことがあれば、審判団に強く主張することも大切な仕事のひとつです。海外では、ルールを熟知していない審判がフライングを取ったりすることもあり



帯同した国際大会にて(中右から2番目が岩瀧さん)

ます。現地では寝る暇もないほど多忙を極めますが、選手たちにとって次のステップにつながる遠征となるように努力しています」
現在の業務は、二つ二つの判断が組織や選手に大きく影響するため、ミスが許されない厳しい世界。プレッシャーを感じる中、常に複数エッジを重ねながら慎重に仕事を進めています。「その分、やりがいや喜びも大きい」と岩瀧さん。「リオ2016大会で代表選手の2人がメダルを取った時は、大興奮して思わず叫び、周りのスタッフとハイタッチで喜びを分かち合いました。昨年の世界選手権大会では、ジュニア時代から育成に関わってきたサニブラウン・アブデル・ハキーム選手が、400mリレーメンバーとして3位に。その銅メダルを僕の首にかけてくれた時は、込み上げるものがありました。私はサポートメンバーなので、存在感を出さないように裏方に徹しているのですが、それでも見てくれている選手やコーチ



2019年の授賞式で(ジュニア時代から携わるサニブラウン選手らと)

はいて、「岩瀧さんのおかげで良い成績を出せました」なんて言われると、すごくうれいいですね」
世界中から注目を集める東京2020大会は、一年後に迫っています。大会が始まると同時に、岩瀧さんは選手村に入り、選手たちをサポートする予定です。
「福岡大学で陸上競技部に入り、本音で語り合える仲間に出会って精神的に成長し、主務になったことで人を支えることのやりがいを知りました。山崎先生に勧められた海外経験を通して語学力や国際感覚が身に付き、それら全てが今の仕事につながっています。人生は何があるか分からないし、チャンスを逃さずチャレンジしてきた良かったと思います。東京2020大会の開催も近づいてきました。私のミッションは、選手たちが100%の力を出し切れるように環境を整えること。そのために全力を尽くします」



東京2020大会の成功に向けて、多方面の調整業務が続く

名だたる先輩たちの背中を追いかけ、福岡大学で自身のパフォーマンスを高める在学生。憧れの世界大会やプロへの夢を現実にすべく、今日も練習に励んでいます。

世界を目指才在学生



陸上競技部
人文学部教育・臨床心理学科
3年次生

兒玉 芽生さん

〈大分県臼杵市出身〉
IAAF世界リレー2019横浜大会で、女子4×200mリレーの日本代表として出場し4位入賞。同大会で日本新記録を樹立。



結果が全てのプロの世界で、後輩たちの目標となる選手に

2020年2月、Jリーグ「大分トリニータ」への来季新加入が内定した井上さんは、兄の影響でサッカーを始めたサッカー少年。プロ選手を目指して島根の強豪校に入学した後、本学サッカー部の乾真寛監督のスカウトを受け、福岡大学へ進学しました。

現在は、チームメイトと切磋琢磨できる恵まれた環境で自身の技術を高めています。「監督からは目標の立て方や、プロとして活躍するためのトレーニング方法など、将来を見据えた指導をしていただいています。特にメンタル面は鍛えられました。以前は思うようにボールに触れられず心を乱

明確な目標に向かって成長する自分への期待を胸に走り続ける

「世界で活躍する選手になりたい」。陸上競技を続けられる進学先を探していた中、福岡大学陸上競技部顧問の信岡沙希重先生からの「一緒に世界を目指そう」の一言で、進学を決意した兒玉さん。陸上競技部の指導はこれ以上ないと思うほど丁寧で、本当に恵まれた環境だと言います。「個人に合わせた練習メニューはもちろん、けがの治療にも多方面の先生方と連携を取ってくださって、大学全体で支援していただいています」。

陸上競技部の仲間が学年関係なく勝ちに貪欲で、日本代表レベルの部員も多く所属。良

きライバルとしてお互いに助言し合ったり支え合ったりしながら、日々練習に励んでいます。目の前にある大きな目標は、女子4×100mリレーメンバーとして東京2020大会へ出場すること。出場のためには、現在の日本記録を超えるタイムを出すという、レベルの高い結果が求められますが、まずは次の大会で記録を出すことに照準を合わせています。

「100分の1秒を争う競技。世界を目指す上で、ほんの少しの調整が大きな差につながります。『世界を目指すための体の使い方』を先生に指摘され、今は細かな動きにまで意識を集中させています。少しずつですが着実に、変化を感じています。絶対に勝つ。もっと速く走れる。自分に期待しながら、走り続けます」



サッカー部(男子)
スポーツ科学部スポーツ科学科
4年次生

井上 健太さん

〈神奈川県横浜市出身〉
2020年2月、大分トリニータにJリーグ特別指定選手として認定され、来季新加入内定。



バレーボール部(女子)
スポーツ科学部スポーツ科学科
3年次生

林田 愛佳さん

〈福岡県春日市出身〉
高校時代には春高バレーに出場。2019年全国日本インカレで準優勝。ユニバーシアード選手合宿にも参加。



悔しさをバネに猛練習
大学日本一を目指す

友人の誘いをきっかけに小学6年生からバレーボールを始めた林田愛佳さん。中学3年生の時、福岡県選抜のメンバーとして全国優勝を経験。高校では「春高バレー」に出場し、強豪校との試合を通じて「強くなりたい」という気持ちが強まっていったと言います。

その後、地元の大学を希望して福岡大学に進学。昨秋、全日本インカレで準優勝しました。林田さんはうれしい反面、自身のスパイクが相手チームのブロックに阻まれ「優勝に一歩およばなかった」という心残りを持っています。その悔しさと責任感が林田さんを1日5〜7時間におよぶ

練習に向かわせています。マルチプレイヤーを目指す林田さんはアタックからレシーブまで幅広く練習。「副キャプテンとして、チーム全員が日本一という同じ目標に向かってくいように、技術はもちろんですが、気持ちを一つにしよう」と心掛けています。「周囲への心配りを大切にしています。バレーに専念できる環境が充実していることに加え、社会で通用するための人間力を養えるのも本学の素晴らしい点です。」

「誰よりも声を出し、笑みを絶やさずにいることです。コートに入ると雰囲気が一変するよう存在感のある選手になりたい」と笑顔で話す林田さん。将来はVリーグや日本代表での活躍を目標に、春の黒鷲旗大会、そして秋の全日本インカレへと一歩ずつ歩みを進めています。

オリンピックの目下監督と日本一・世界一を目指す

チャーミングな笑顔が印象的な坪根さんは、52kg級で活躍する注目の新星。5歳から柔道を始め、高校3年のインターハイで準優勝し、栄えある講道館杯にも出場しました。

シドニー2000大会銅メダリストで、福岡大学柔道部(女子)の目下部長監督から「地元福岡から世界を狙おう」と誘われたことがきっかけで本学に進学し、尊敬する監督の下、日々練習に励んでいます。とはいえ、思うように結果が出ない時期は精神的につらく、特に昨年の夏は試合に気持ちが入らなかつたと打ち明けます。そんな時、目下監督の「悔しいのは自分だけじゃない」と

という言葉にハッとして、気持ちが吹っ切れたという坪根さん。2カ月後の講道館杯で5位に入賞し、全日本柔道連盟の強化選手に選ばれました。その後、2020年2月にはベルギーで開催された国際大会で6試合オール一本勝ちし、優勝を果たしました。

「試合の後には監督がきめ細やかな振り返りのメールを送ってくださり、「良かったよ」「また頑張ろうね」という温かい言葉に励まされています。大学に入って、課題だった精神面も少しは強くなったと思います」

当面の目標は、52kg級で日本一になること。「大好きな柔道を一生続けたい」という坪根さんは、「いつか憧れの目下監督のように、日本代表として世界の舞台に立つ」という大きな夢を描き、毎日の練習に全力で取り組んでいます。



柔道部(女子)
法学部法律学科 3年次生

坪根 菜々子さん

〈福岡県太宰府市出身〉
52kg級。2017年にインターハイで準優勝。全日本ジュニア柔道体重別選手権大会3位。大学2年次にベルギー国際大会で優勝。全日本柔道連盟のB強化指定選手。



時代を駆ける先輩たち



株式会社電通九州 上席執行役員

岩切 祥哲さん

いわきり・よしのり

1983年3月、福岡大学商学部商学科卒業。卒業後、株式会社キョウエイアドインターナショナルを経て1985年株式会社アド電通九州に入社。1996年株式会社電通九州に入社。2003年大分支社長、2009年第1営業局長、2012年営業推進局長、2016年第1営業局長、2018年取締役を歴任し、2020年4月より現職。

個性を磨き、自信を持って もっともっと跳ね回ってみよう

大学やアルバイトで多くの人と出会い「人が好き」という思いに気付いた

日本最大の広告代理店・電通の地域法人として、同社の九州支社を母体に設立された株式会社電通九州。2020年で創立25周年を迎え、売上高は九州ナンバーワンを誇っています。その電通九州で上席執行役員を務めているのが岩切祥哲さんです。

中学・高校時代はバレーボールに打ち込み、先生に勧められた福岡大学商学部商学科に入学。下宿先の前の部屋に住んでいた1学年上の先輩との出会いが、岩切さんの大学生活に大きな影響を与えたと振り返ります。

「ちよっとここに名前を書いて。と言われて、その先輩が入っていた工学部サッカー愛好会・七隈トンビーズに入ることに。愛好会といえども元国体選手ばかりで、社会人リーグ1部というチームで驚きました。僕はサッカー経験ゼロなのに、バレーボールをしていたなら手を使うのが上手いはずとゴールキーパーに任命され、次のキーパー候補が入ってくるまで、そのまま何試合も出場しました」

練習は、毎日朝7時半から9時まで。遠征や試合に向けて、熱のこもった練習が続きま

した。初心者の岩切さんは途中で辞めたのかと思いきや「4年次生の最後まで続けましたよ。一度始めたなら、最後までやり遂げたいと思う性格なので」と楽しそうに話します。

大学1年次から居酒屋でアルバイトを始めたのも、下宿先の先輩から誘われたのがきっかけでした。「たまたま働くようになったけど、そのおかげでサラリーマンや経営者からいろいろな話を聞かせてもらうことができ、視野が広がりました」。

大学4年次が近づき、岩切さんは将来のことについて考え始めました。「福大には九州をはじめ各地から学生が集まっていて、刺激的な毎日でした。たくさん個性豊かな人たちと出会い、話を聞くうちに、僕は人が好きだな、人と交流する仕事をしたいなと思うようになりました。ただ、個人に対する接客業ではなく、組織の人たちと何かやってみたいと思っただけです」。そんな漠然とした思いから、目指す業界を絞ることができたのも、下宿先の先輩の存在が大きかったとのこと。広告代理店で働き始めた先輩から仕事の話を聞くうちに、「ゼロからビジネスを作り、多くの人を動かしたり感動をもたらしたりできる広告の仕事は面白そう」と思い、見事に希望

する広告業界への就職を果たしました。

FFAWールドカップで カメラマンと村民の交流に感動

広告業界に入って、今年で38年。岩切さんは一貫して営業の道を歩んできました。「広告には『人に伝える』というごくシンプルなビジネスで、はるか昔ローマ帝国時代からあるんです。中でも営業の使命は、お客様の商品やサービスを知ってほしいという思いを具現化して生活者に伝えること。お客様と話をしながら、ゼロから創り上げていきます。お客様の課題を把握した上で、いかにクリエイターやメディア担当に動いてもらうかも大切。トータルプロデューサーとして全責任を負う立場ですから、非常に面白くてやりがいがあります」。そう話す岩切さんの表情は実に生き生きとして、仕事を心から楽しんできたことが伝わってきます。

これまで手掛けてきた数多くの仕事の中でも、特に印象に残っているのは、2002年のFFAWールドカップだと言います。当時、大分支社次長を務めていた岩切さんは、行政のサポートを担っていました。人口1500人ほどの中津江村がカメラマンのキャンプ地に選ばれ、「一番小さな自治体のキャンプ地」と話題に。しかし、カメラマンチームの到着が5日遅れ、空港までバスで迎えに行った岩切さんはハラハラしっぱなしだったと打ち明けます。

「選手団が村に着いたのは夜中3時でしたが、村の人たちや小さな子供たちが旗を振って大歓迎。選手団は高校生と交流試合を行

い、壮行会では坂本村長をはじめとする村の人たちと打ち解けて、とても良い関係を築くことができました。帰国後、村にはカメラマンからエメールが届き、村長はカメラマン政府から勲章を贈られました。今でも交流が続いているようです」

掘し発信して、九州の皆さんがさらにパワーアップするようなお手伝いをしていきたい。会社としても新しい分野や世界に向けてチャレンジしていきます」

九州の魅力を発掘・発信して 九州をさらに元気にしたい

「広告という情報産業はこれがダメという枠がなく、自分次第で何でもできます。特にうちの会社ではやりたいことを自由にやらせてもらったと思います。僕はお客様に『これがダメならあつちはどうですか』と積極的に提案するタイプ。しつこいんじゃないかと、必死なんです。相手は人なので、やっぱり熱心にしていけば気持ちを通じる。もちろんうまくいかないこともあるけれど、辛いと楽しいは表裏一体。常に学びながら、達成感や充実感を求めてチャレンジしてきました。お客様にも社員にも恵まれて、とても感謝しています」

最後に、福大生に向けてこんなメッセージを頂きました。「福大の建学の精神である『質実剛健』は、実に素晴らしいと思います。個性豊かな人たちが過ごした大学時代、僕はたくさんの人と交わり語り合う中で、根気強さや挑戦する前向きな姿勢を身に付けることができて、それが人生に大いに役立っています。皆さんも個性を磨き自信を持って、学生のうちからいろいろなことにチャレンジしてみよう。『さすが福大生、やるね』と言われるくらい、もっともっと元気に跳ね回ってほしいと思います」

今年から上席執行役員となり、管理職としてのマネジメントや経営側として、さらに手腕を発揮していくことになりました。

「九州で長年広告業に携わり、国内や海外もいろいろと見てきましたが、やはり九州という土壌はエネルギーで特別だと感じています。住んでいる人たちは情熱的でパワフルで明るく、土地ごとに豊かなコンテンツがある。そんな九州のあふれるパワーをもっと発



大学時代の岩切さん(写真中央、キーパー姿)



若手社員時代の岩切さん



「私自身まだまだチャレンジを続けたい」と語る岩切さん



「福大生は、個性を元気や活力に変換する力を持っています」

手にした夢を諦めないで 挑戦し続けてほしい

大学生活で得た「学ぶ楽しさ」 そして今につながる原点

手を合わせた人の最期の姿が視える能力を持つ救急救命士が主人公の「4分間のマリゴールド」。昨年放送されたテレビドラマに涙した人も多いのではないだろうか。原作者のキリエさんは、桐衣奈央さんと知世さんの姉妹漫画家。そして二人の母である小説家の朝子さんによって、物語は小説にもなりました。それぞれの作品で家族の大切さや深い愛情、命の尊さを丁寧に紡ぐ3人は、全員が福岡大学の卒業生。活躍の場を広げている3人に話を聞きました。

長く専業主婦をしていた朝子さんが、社会人入試制度を利用して人文学部文化学科に入学したのは46歳の時。家庭の事情で現役での進学はかなわず、ずっと抱えていた「勉強したい」という思いがようやく現実になりました。当時中学生の娘たちに夢を追いかける姿を見せたいと踏み出した朝子さんは、広々とした学び舎で、たくさんの出会いに恵まれます。

「本当に楽しかった。人生でこんなに楽しいことはなかったくらい」。教える際は限りなく応えてくれる先生。授業は常に最前列で、心理学や哲学など学問の楽しさに没頭していきまし

た。「大学で得た知識全てが、小説家としての私の栄養になっています。あの時福大に入っていないかったら、今の私はないでしょう」。

大学進学の夢をかなえ、表情を明るくしていく母をうれしく見つめていた姉妹もまた、数年後、その背中を追いかけるように商学部第二部商学科に進学。2歳年上の奈央さんは高校卒業後、介護職の道へ進んでいましたが、妹の知世さんと一緒に学ぶため本学へ入学。毎日肩を並べて勉学に励みました。日本文学や西洋文学の面白さ、経営学では社会貢献の重要性などを学んだと言います。

幼い頃から絵を描くことが好きで漫画家に憧れていた一人でしたが「漫画一本に人生を賭けるのは難しい」と、奈央さんは介護職で生計を立てることも考えていました。一方、漫画家になる夢を軸に考えていた知世さんは、授業の合間に図書館に通いつめては、漫画のアイデアになり得るさまざまな知識を蓄えていたと話します。卒業後も知世さんは、漫画家になるための下積みで専念。漫画を描きながら情報を集め続けていきました。一方、姉の奈央さんは漫画家の夢や、大学での学びを生かせる将来を考えながら、専門学校で非常勤講師として学生に介護技術を教える日々を過ごしました。

時代を駆ける先輩たち



<p>漫画家 キリエ 桐衣 知世さん きりえ・ともよ</p> <p>2009年3月、福岡大学商学部第二部商学科卒業。メインの作画を担当。</p>	<p>小説家 桐衣 朝子さん きりえ・あさこ</p> <p>2001年3月、福岡大学人文学部文化学科卒業。2012年「ガラシャ夫人のお手玉(改題・薔薇とバスケット)」でデビュー。</p>	<p>漫画家 キリエ 桐衣 奈央さん きりえ・なほ</p> <p>2009年3月、福岡大学商学部第二部商学科卒業。2014年「ヒトリスカ」でデビュー。代表作は「4分間のマリゴールド」</p>
---	--	--

母の病気がきっかけとなり それぞれ小説家、漫画家の道へ

姉妹が大学を卒業して2年が経ったある日、母・朝子さんの乳がんが発覚しました。「定期検診で何の覚悟もなしに病院へ行ったら突然告知されて」。落ち込みながらも無事に手術を終えた3日後、朝子さんの心に芽生えたのは一つの思いでした。「私、小説書かなくちゃ」。

当時、専業主婦だった朝子さんがそう思い至ったきっかけは数年前にさかのぼります。姉妹が大学に入った頃、「私たち二人のために、何か物語を書いてくれないか」と知世さんから突然リクエストされたのです。驚きながらも、書き始めてみると、物語を書く楽しさにのめり込み、あつという間に一冊のファンタジーを書き上げます。新しい扉が開いた矢先、大病が発覚したのです。「今この瞬間、そしてこの先も、私と同じようにどこかで絶望している人がいる。その人たちに、文章で何か言葉を伝えてあげたい」。そうして筆を執り一年半後に完成した作品『ガラシャ夫人のお手玉』は、2012年「小学館文庫小説賞」を受賞。翌年「薔薇とバスケット」に改題して出版され、小説家としてデビュー



「娘たちとは、良い影響や刺激を与えています」と朝子さん

しました。物語の主人公は介護福祉士。娘が話してくれた介護現場の高齢者の姿が、創作の原点になりました。

「私の作品を読んで誰か一人でも人に優しくしてあげたいという気持ちになったり、誰かの心を励ますことができたならうれしい。針の先ほどでもいいから、この世界を良くしたいのです」

突然の大病は朝子さんだけでなく、姉妹の人生にも大きな変化を及ぼしました。漫画家一本に絞れなかった奈央さんも覚悟を決めて、姉妹で「漫画家・キリエ」になると決心。卒業から5年が経った2014年、傍らで看取った祖母への思いを注ぎ込むように描いた作品「ヒトリスカ」が、「小学館新人コミック大賞」を受賞しデビューを果たしました。

知世さんは「ジャンルを問わず、面白いと思う題材を選んで」と言います。「実在の職業をベースにしているので、小さなシーンでも対象を徹底的に調べ上げないと書けません。その勉強の仕方は大学で学んだことです。また漫画は若い人も読むので、思考が偏らないように多くの本を読んで、常に多面的な思考でいるように気を付けています。「4分間のマリゴールド」も、大学の図書館で救急救命士についての本を熟読し、描いた作品です」。

奈央さんが制作当時の印象的なエピソードを教えてくださいました。「消防本部に取材に行ったのですが、時間を割いていただくことが申し訳なくて、萎縮していた時に担当の方が本学OBの方で、終始快く協力してくださいました。その時ふと、在学中に言われた「福大を卒業して良かったと思つことがたくさんあるよ」という言葉を思い出しました」。綿密な取材を

もとに救急現場をリアルに表現した「4分間のマリゴールド」には、多くの感想が寄せられ、二人は「漫画家をやっていて良かった」と実感したそうです。

私たちの作品を通して 人を幸せにしたい

今では奈央さんが知世さんの漫画だけでなく、朝子さんの小説も編集管理しており、一心同体のような3人。最後に福岡大学に通う後輩へメッセージを頂きました。

「作品づくりは、この人にしか書けないという強みを、いかに見せるかが大事です。学生の皆さんも、これだけは負けないという自分の強みを早めに見つけて、伸ばして行ってほしいです」と話す奈央さん。そして知世さんは、「後悔しそうだなと思うことは、絶対に挑戦した方がいい。もし挑戦した先が不安定で心配なら、何か資格や技術を身に付けて安定も確保する。私たちもそうやって夢を諦めずにやってこられましたから」とアドバイスします。40代で学生に、そして大病を乗り越えて小説家デビューをかなえた朝子さんは、「人生いくつからでも挑戦できますし、病気が失敗など、一見不幸や不運と思われるようなことであっても、実はその人にとって最も素晴らしいものを運んでくれます。だから、この先どんなことがあっても投げ出さないで、いつかそれが財産になりますから」と力強いエールを送ってくれました。

3人の根底に共通して流れるのは「作品を通して人を幸せにしたい」という確かな思い。生み出す作品と同様に愛がにじみ出るような姿に、じんわりと温かな気持ち広がりました。



大切な家族であり、仕事仲間でもある3人



「共に学べた時間が本当に貴重で楽しかった」と話す姉妹



母朝子さんの小学館文庫小説賞の受賞式にて(2012年)



学び方を工夫し 努力した経験は 必ず力になる

篠栗町立 勢門小学校
養護教諭
戸田 みゆきさん
(医学部看護学科 2016年卒業)

小学生の時に抱いた夢を貫き 看護師資格を持った養護教諭に

養護教諭として小学校で勤務している戸田みゆきさん。保健室で子どものけがや病気の応急手当、心のケアに当たり、保健の授業なども担当しています。「みんなが楽しく学校に通えるように、心身の健康を支える養護教諭になりたい」。そんな将来の夢を定めたのは、戸田さんがまだ小学生の時。学校が大好きで、小児科の看護師として働く母に憧れていたと言います。

看護の専門知識を身に付けたくて、福岡大学の医学部看護学科へ進学。教員採用試験に向けて本格的に勉強を始めたのは、3年次の後期でした。

ハードな病棟実習と重なり、限られた時間で効率よく勉強しようと、エクステンションセンターの「教員採用試験対策講座」を受講。小論文や面接についても、講座で学びました。専門的な集団討論や面接、実技に関しては、看護学科の先生に指導をお願いして友人たちと練習。そして見事、第一志望だった福岡県の養護教諭試験に合格しました。

「看護と養護の勉強を両立するのは、予想以上に大変でした。でも、エクステンションセンターの講座でポイントを押さえて勉強できて、学科の先生方に手厚くサポートしていただきました。また、同じ目標に向かって励まし合える友達がいいたから、頑張れたと思っています。学科の先生には、今でも相談させてもらうことがあり、とても心強いです。看護師の資格を持っていることが私の強み。専門知識を生かして子どもたちに寄り添い、成長を支えていきたいです」

大きな建物を造りたい 熱意を形にできる仕事

企業研究と 自己分析で 明確なイメージと 自信が生まれる

株式会社九電工
福岡西営業所
岡 佑司さん
(工学部電子情報工学科 2017年卒業)



電気工事を管理する株式会社九電工に勤める岡佑司さん。現在は、福岡 Parkway ドームに隣接する商業施設で、現場の安全管理や工程管理、施工に携わる人材のマネジメントなど、多岐に亘る業務を担っています。

工学部電子情報工学科で学びを深める中「ずっと形に残る大きな建物を福岡に造りたい」という気持ちが高まっていったと言います。興味を持った電気関連の事業に的を絞り、3年次の2月に就職活動を始めました。

「弊社には福岡大学の卒業生が多く在籍しており、友人と一緒に話を聞いたり、WEBで企業情報を調べたりするうちに「ここしかない!」と心が決まりました」

4年次の4月にエントリーし、筆記試験や面接を経て5月に内定を得た岡さん。就職活動の力は企業研究と自己分析だと話します。「面接は絶対に緊張してしまうもの。場の空気に飲まれずに、その会社への熱意を伝えられるのが大切です。そこで生きてくるのが企業研究と自己分析の精度。この2つを徹底して行ったので、企業で働く自分を明確にイメージし、面接に臨むことができました」

入社して間もない頃、福岡大学の新4号館の施工サポートに入るようになった時はとても感慨深かったそうです。今は一級電気施工管理技士の資格を取るべく勉強中の岡さん。

「建物に欠かすことのできない電気。建築とはまた違った形で、建設に携わることができ、誰もが知っている大きな建物を造りたい」という大きな夢を電気工事という面からかなえるために、確実に経験を積んでいくと思っています」

「この会社で働きたい」 諦めずに手にした自分のキャリア

TSUTAYAや蔦屋書店、出版・コンテンツ等を提供するカルチュア・コンビニエンスクラブ株式会社(以下CCC)で、企業向けのTポイント事業に携わっている末増周さん。「6年越しの思いが実を結んでいます」とうれしそうに話します。

商学部経営学科のマーケティングリサーチでTポイントの仕組みに興味を持った末増さん。「運営企業を調べたところ、書店の経営だけでなく図書館や公共施設の管理や、飲食店など幅広い事業を担っていることが分かり、とても魅力を感じました」。

その後、3年後期から就職活動を開始。当時開催されていた商学部の先生方や内定をもらっている4年次生が有志で開催する就職塾に積極的に参加し、グループワークや面接のシミュレーションを行いました。憧れだったCCCにもエントリーしましたが内定には至らず、一度は別の会社に入社しました。

しかし、CCCで働く夢をかなえるため転職活動を行い、2017年4月に中途入社を果たします。そして翌年、CCCを知るきっかけになったTポイント事業に携わることになったのです。

「福岡大学での就職活動は、大企業からベンチャー企業まで間口が広がっていて、先生方や周りのサポートも充実しています。この恵まれた環境を生かして、思い描いた将来を追いかけてほしいです」

自分のキャリアを諦めなくなかったと話す末増さん。夢をかなえたその表情はいきいきと輝いています。

自分の目で確かめたからこそ 自信を持って思いを伝えられた

鶴田さんは、株式会社JALスカイ九州のグランドスタッフとして空港カウンターや搭乗口、バックオフィスでの業務のほか、ラウンジも担当し、多くのお客さまに笑顔を届けています。入社して6年目の今、「さらに力を養って後輩をフォローしていきたいです」と話します。

百貨店のアルバイトを通じて、自分の働きかけでお客さまが喜ぶ姿を目の当たりにし、うれしさを感じた鶴田さん。小学生の時、初めての一人旅の途中に出会った温かいグランドスタッフの姿を思い出し、大学2年次の秋に「あの時対応してくれた方のような仕事をしたい」と考えるようになりました。周囲に航空業界へ進んだ先輩が少なかったため「自分で積極的に動こう!」と決意。3年次になる頃から、何度も空港に足を運び、そこで働くスタッフの接客を目で追い、時には質問をして、情報収集に励みました。空港内で流れるアナウンスを聞いて、JALの温かく配慮された言葉遣いに気付いた鶴田さんは、心から感動したと言います。

3年次の秋には、エクステンションセンターで「エアライン講座」を受講し実践的な指導を受けました。同じ目標を持つ仲間にも出会い、情報交換など切磋琢磨しながら就職活動を進めた鶴田さん。何度も自分の目と耳で感じたことや、会社への熱い思いを、面接で自信を持って伝え、内定を得ることができました。

「自分のしていることが正しいのか悩み立ち止まった時期もありました。しかし、頑張ってきたことは裏切りません。走りだしたら自分を信じて貫き、視野を広げて行動すれば、夢に近づけるはずですよ」と、力強いエールを送ってくれました。

挑戦させてくれる 環境を最大限に 生かしてほしい

カルチュア・コンビニエンス・
クラブ株式会社
九州営業九州Tポイント
末増 周さん
(商学部経営学科 2016年卒業)



自分を信じて 視野を広げれば 夢に近づける

株式会社JALスカイ九州
空港オペレーション部
鶴田 知日愛さん
(法学部法律学科 2015年卒業)



最新機器と技量をもって 「頼れる最後の砦」に

肺移植やロボット手術など
高度で最先端の医療を提供

福岡大学病院は、1973年の設立以来、医療人の教育・研究を担い、特定機能病院としての役割を果たし、「あたたかい医療」を提供してきました。

現在、医療を取り巻く環境は変化し、技術は日々進化しています。その社会の変化とニーズの高まりを受け、本病院は臓器移植にも力を注ぎ、特に肺移植は全国認定施設9施設の一つとして着実に成果を上げています。また最新式の手術支援ロボットを導入し、前立腺や腎臓などの手術も行っています。昨年からは胃や大腸を含む消化器、肺や縦隔の呼吸器、子宮の婦人科に対する保険適用が認められたため、今後ますますロボット機器を使った手術は増えていくと思います。

「最新機器を操作する医師たちの育成に早くから着手してきました。時代の変化に対応する準備は整っています」と岩崎先生は胸を張ります。

ロボット機器の操作にはライセンスが必要になります。本病院ではそのライセンス取得のための研修を実施しており、九州一円から医師たちが集います。さらに九州で唯一、呼吸器系の証明書を発行できるという点も本

病院の強みであり、医療技術の指導と、九州の医療の発展を担うという重要な役割も果たしているのです。

また、副作用が少なくピンポイントで患部に照射できる最新機器も、放射線科に導入予定。最新の機器と技量を備え、大学病院の使命である高度で最先端の医療を提供することに努めています。

地域や行政との連携、
医療の環境改善に取り組む

本病院は地域医療機関、行政機関との連携はもちろん、FMRC（エフマーク）と呼ばれ

の系譜



福岡大学病院

1973年8月開設。23の診療部からなる特定機能病院。「あたたかい医療」を基本理念に掲げ、地域医療の中心として社会に貢献するとともに、高度な医療の提供や医療人の育成、臨床研究の推進に努めている。病床数は915床。

病院長 岩崎 昭憲 教授

ヒポクラテス

福岡大学西新病院

1983年、福岡市医師会成人病センターとして開設。福岡市医師会から事業譲受し、2018年4月1日に、福岡大学西新病院に。循環器内科、消化器内科、小児科など、7つの診療科がある。病床数は117床。

病院長 三浦 伸一郎 教授

循環器内科、消化器内科、
小児科を中心に地域に貢献

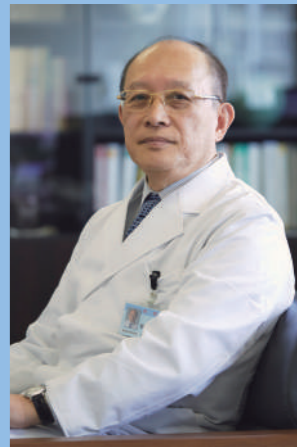
福岡大学西新病院は、福岡市医師会成人病センターからの事業譲受によって2018年4月に開院しました。これまでの内科系診療を維持しつつ、新しく小児科の入院機能を加えた病院です。また、胃や大腸の消化器内視鏡



大型の一体型モニターを備えた最新の血管撮影システム「Trinius」



福岡大学西新病院として3年目を迎えた



緊急車両に医師や看護師が同乗し、救急現場ですぐに処置ができる取り組みを取り入れています。「断らない医療」を目指し、救命率の向上に努めています。また、今年1月から猛威を振るっている新型肺炎のような緊急事態時においても、行政機関との情報交換・連携を行い、地域医療の中核である大学病院として万全の体制を整えています。

超未熟児を診療する周産期母子医療センターといった特殊な部署も持つ本病院ですが、大学病院の総合力を強みに、どの分野においても対応できるような技術・スタッフ・設備を備えています。また、臓器移植の分野においては、移植強化のため診療部門へ組織改革を行いました。今後は治療技術が多様になると同時に、オンライン診療なども進むでしょう。その仕組みづくりも積極的に進めていく予定です。

「どんな病院でありたいか」の問いに、「常に頼れる最後の砦でありたい」と答える岩崎先生。開院から50年を迎える2023年に向けて、新本館の竣工も予定されています。変わりゆく医療現場の中で未来を見据えながら柔軟に対応し、本病院の「あたたかい医療」の提供は続いていきます。



2023年秋竣工予定の病院新本館（イメージ図）



「ダビンチ」(写真)をはじめとした医療ロボットによる手術は今後も増えると岩崎先生

「断らない医療」を続けて 地域連携を図る

スタッフと会話を重ね
チーム医療を形成していく

顔を合わせ、話をよく聞くことに重きを置く三浦先生は、病院内でも医師や看護師、事務職員らと顔を合わせ、各々が病院や患者さんに対してどんな思いを持っているのか、話を聞くようにしています。

「チーム医療」を体現する先生の行動には、循環器内科の医師としての経験が大きく影響しているそうです。心臓手術後、患者さんにはリハビリが必要であり、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、臨床検査技師らがチームを形成して治療に当たります。「医師は検査データを基に回復状況を把握できても、患者さん自身が吐露しない限り気持ちを十分に理解するのは難しいと言います。看護師や理学療法士らがそれを補い、チームワークによって回復への道が早まるのです」。チーム医療を率いてきた先生の思いが本病院でもすでに発揮されています。

今後は地域住民に向けた健康セミナーなどを行い、医師や病院スタッフと地域住民との触れ合いの場を増やし、関係性をますます深めていく予定です。地域の期待に応えるべく、これからもより良い医療の提供を続けます。

検査などを行う健康診断を数多く受け入れ、地域住民の健康維持を担う病院として近隣のクリニックや住民から厚い信頼を得ています。超高齢社会の今、医療を取り巻く環境は変化しており、大学病院で手術を終え容態が安定した患者さんを地域の病院で診るような地域医療の充実が望まれています。2019年12月、病院長に着任した三浦伸一郎先生は、「高度先進医療を担う大学病院と地域住民のかかりつけ医であるクリニックの橋渡し役になりたい」と、着任後、近隣のクリニックを訪ねたと言います。「大学病院への相談」に高いハードルを感じている地域の先生方も多く、それを払拭するためです。「顔を合わせることで大事です。直接話をするということをお互いによく理解でき、患者さんの症状や気持ち、治療方針を共有できます」と話します。

本病院に搬送された患者さんに高度な治療が必要な場合は福岡大学病院に搬送し、本病院での入院で済めば退院後の診療等を地域のクリニックに依頼します。その連携によって患者さんの不安は軽減され、クリニックの負担も小さくて済みます。三浦先生は患者さん、クリニックの双方に対して「断らない医療」を続け、さらに地域との連携を深めたいと、今後の意気込みを語ります。

卒業生の皆さんへ

3月19日(木)に予定していた卒業式は、新型コロナウイルスの影響拡大に伴い中止となりました。ここに、学長ならびに本学卒業生から卒業された皆さんへメッセージを贈ります。

学長メッセージ

支えてくれた方への感謝の気持ちと、
高い志を持つことを忘れないでほしい

感謝と目標を胸に、 社会に貢献できる人へ

学位記を授与された学部生3,917名、大学院修士課程・博士課程前期および専門職学位課程修了生186名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

このたびの卒業式については、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、中止するという苦渋の決断をいたしました。皆さんにとって、一生一度の卒業式を中止することになり、誠に残念でありませんが、状況を理解してくれるものと思っています。

さて、本日をもって、皆さんは社会人になります。学生ではありません。社会人として飛び立つ皆さんへ、三つのことを、お話ししたいと思います。

まず、ここまで皆さんを立派に育ててくれた、ご両親・ご家族、先生方、そして社会に対する感謝の気持ち、自然や神を畏敬する気持ちを忘れないでほしいということです。私たちは色々な弱さや欠点を持ったまま成長し、多くの人たちに支えられ受け入れられています。そのことに対する感謝です。

私が感じますに、ある程度満たされた中にいますと、あまり自分の置かれた状況に感謝しない傾向にあります。私は人生を振り返って、感謝することを大切にします。それが家族、両親、自分自身を大切にすることのみならず、社会や祖国、自然を大切にすることにつながると考えています。

しかし、急には感謝もできないし、思いやりや社会貢献など語れないのがあります。それは、ハードワークの後こそ、思いやる心や感謝が生まれ、社会貢献ができるのです。ハードワークの後には、アイデンティティが生まれますので、その精神を継続する必要があります。

これから、皆さんは推測不能の様々な場面に遭遇します。今回の新型コロナウイルス感染症に関しても、同様です。しかし、様々な問題に遭遇するたびに、人は一歩ずつ飛躍的に成長します。線状に、3D的に成長するのではなく、階段状に成長します。多くのチャレンジ、Struggle、常に現状に満足せず上を目指し、そこから社会貢献が生まれますので、皆さんの頑張りを、期待したいと思います。

次に、人生の組み立てについてです。大きな目標を持つことは大切です。目標は短期的、そして長期的視点で設定することが必要です。常に志を高く維持してほしいと願っています。しかし、自分の考えたレールの上だけを歩く人は、誰一人としていません。むしろ、こうならなければならないという方向に、人生は動いていきがちです。

人間です。失敗もあります。うまく行かない方が多いですが、上手いかないときこそ、皆さんの真価が問われるのです。愛と敗北は人生を豊かにします。人は必ず死ぬ、これがサイエンスで一番正しいエビデンスです。その観点に立つと、一度の人生を懸命に駆け上がってください。命の大切さを感じながら、スウィ



ングする皆さんを応援したいと思います。
私は福岡大学のスロガとして「Rise with USJ」を掲げています。共に成長し、共に駆け上がるつもりではありませんか。共に連動し、拍動して、社会に貢献していきましょう。

最後に、これからの皆さんを取り巻く社会の環境は、大変厳しいものがあります。グローバル化、多様性の尊重、AIの参入などがますます進み、Society 5.0 社会に向かつて社会が動きます。働き方改革が推進され、研究の分野ではアウトカムが要求されます。すべてにおいて、正しい、ベストワンの選択や倫理的問題の解決が、必要になってきます。今までの常識が非常識になることが、現場では起こります。

皆さんが、そのような社会の中で、これまでに身に付けた様々な力を駆使し、先頭に立って進んでいくことを期待しています。

福岡大学は、すぐれた社会人を育てます。皆さんが今後とも研鑽を重ねて、社会に貢献する仕事に邁進されるよう、期待しています。
卒業おめでとう。

福岡大学長 朔啓二郎



学長メッセージ
動画はこちら

※学長メッセージは、要約させていただいております。

先輩からのメッセージ

周囲の支えを力に、夢に向かって羽ばたいて

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私は「自分の目標を達成する」という強い思いを持って福岡大学に入学し、サッカーに打ち込み、プロ選手になりました。特に、ロンドン2012大会に日本代表として出場し、世界的な舞台でゴールを決めたことは、非常に印象深い経験です。しかしこれは、自分一人だけで成し遂げたことではありません。

周りの方々の支えがあったからこそその結果です。皆さんの周りにも、応援してくれる方が必ずいます。そうした方の声に耳を傾け、常に前を向いて努力してください。

自分を見失わずに前進し続けることは、決して容易なことではありません。そんな時は、これまで仲間とともに乗り越えてきたことや、自分自身の成功体験を思い出してください。必ず役に立つと思います。

皆さんには等しく無限の可能性があります。ぜひ夢に向かって羽ばたいてもらいたいと思います。私もJリーグやワールドカップの舞台で多くのゴールを決めるという目標に向かい、まだまだ挑戦を続けます。

最後に、卒業生の皆さまのご健康と、さらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。



プロサッカー選手 (FC東京所属)
スポーツ科学部スポーツ科学科 2011年卒業
永井 謙佑さん

大学時代の絆と経験を胸に活躍する人に

ご卒業おめでとうございます。

私は、今、自分の卒業時には思いもよらなかったアメリカで、医師として地域医療に携わっています。忙しい日々ではありますが、充実しています。アメリカで医師の仕事に就くまでには大変なこと色々ありましたが、素晴らしい恩師、先輩、友人達に恵まれ、その方達の支えがあつて今の自分があると思っています。

現在の職場は、アメリカ東部、ボストン近郊のロードアイランド州にあります。多様な人種の中で仕事をしています。日本人の仕事は正確で丁寧なやりかたであると感ずることが多く、これは日本人として誇りにしていることだと思います。

今、世界は、新型コロナウイルス(COVID-19)が猛威を振るっています。アメリカでも様々な規制が発令され、医療崩壊さえ生じようとしています。福岡大学の卒業式が中止になったと聞き、とても残念に思いましたが、感染拡大を防ぐためには仕方がないことですね。医療はもとより経済をはじめ地球上の至る所に影響が出ています。社会へのスタート時から皆さん大変だと思いますが、世界中で力を合わせて乗り越えましょう。くれぐれも健康にご留意ください。

これから、社会人として就職される方、また更に学究の道に進まれる方、卒業生の皆さまが、それぞれに福岡大学で得た素晴らしい仲間と経験を大切にしつつ、日本や世界で大きく羽ばたいていけることを、アメリカから願っています。



医師 (米国ロードアイランド州)
医学部医学科 2000年卒業
鬼塚 じゅんさん

総代

- 学部卒業生総代
 - 工学部 化学システム工学科 金保 陽香
 - 人文学部総代 歴史学科 竹下 康一
 - 法学部総代 法律学科 江口 玲奈
 - 経済学部総代 産業経済学科 渡口 未来
 - 医学部総代 医学部 丸岡 亜美
 - 商学部総代 商学部第二部総代 商学科 永野 ひろみ
 - 理学部総代 地球圏科学科 八尋 健斗
 - 工学部総代 機械工学科 山村 圭吾
 - 薬学部総代 薬学科 柴田 佳奈
 - スポーツ科学部総代 スポーツ科学科 伊藤 龍生
 - 大学院総代 医学研究科 森永 朗子
 - 法科大学院総代 法曹実務研究科 成迫 達成

福岡大学学長賞

令和元年度「福岡大学学長賞」は、次の2人が受賞しました。この賞は、在学中の課外活動で顕著な成績を取った学生に授与するものです。その功績を称え、さらなる飛躍を期待します。



スポーツ科学部
スポーツ科学科
(野球部)
みやた たくと
宮田 輝星さん

- 平成30年度 九州六大学野球 春季リーグ戦 ベストナイン
- 令和元年度 第68回全日本大学野球選手権大会 ベスト16
- 令和元年度 プロ野球 北海道日本ハムファイターズ 育成1位指名



スポーツ科学部
スポーツ科学科
(体操競技部)
よねくら ひでのぶ
米倉 英信さん

- 平成31年度 国際体操連盟 (FIG) 技術委員会が跳馬の新技を「ヨネクラ」と命名
- 平成31年度 第73回全日本体操競技個人選手権 跳馬 優勝
- 令和元年度 第73回全日本学生体操競技選手権 跳馬 優勝

INFORMATION

福岡大学で開催される催しや取り組みをご紹介します。多種多様な活動を通して、輝きをます学生たちの姿をぜひご覧ください。

令和2年度 学術文化祭開催



映画研究部
部員/92人

映画を観る「鑑賞課」、映画制作を行う「制作一課」、演技やレクから映画に携わる「制作二課」の3つの課に分かれ、活動しています。



演劇部
部員/13人

前期と後期にある公演に向けて、日々の稽古に取り組んでいます。部員全員が裏方の仕事をもちながら、役者や演出を務めています。



写真部
部員/36人

本格的な一眼レフを使って撮影しています。展示会では写真を通して表現した、部員の個性溢れる作品を展示しています。



美術部
部員/107人

油彩・水彩・CG・陶器・オブジェの5つのジャンルで、年3回の展示会に向けて制作活動を行っています。



文芸部
部員/16人

詩歌・小説を取り上げて意見を交わしたり、テーマを設定して作品を創作したりしています。



書道部
部員/35人

書技向上、親睦融和、書道文化の普及という三本柱をもとに活動しています。



音楽研究部
部員/9人

自作のフリーペーパーや、模造紙を使った展示によって音楽の情報を伝える活動をしています。



囲碁部
部員/20人

毎週火曜日と金曜日に囲碁を打ちます。個性豊かな部員と交流を深めながら日々楽しく活動しています。



器楽部
部員/77人

他の音楽サークルと違う点は、洋楽だけを扱うこと、管楽器を取り入れたバンド活動を行えることです。



メロ・ハーモニー部
部員/28人

音楽の夕べや定期演奏会に向けて、歌うことの魅力を追求し、日々の活動に取り組んでいます。



マンドリンクラブ
部員/54人

春にクラブ創立60周年を迎えたマンドリンクラブは、マンドリンという弦楽器を使ったオーケストラ演奏をしています。



放送研究部
部員/21人

演技や司会・MC、撮影や映像編集等、幅広く「放送に関わること」を行っています。



茶道部
部員/32人

週3回のお稽古に励み、基本的な作法、正しい日本語の使い方など普段の授業では触れることのない知識を茶道を通して学んでいます。



将棋部
部員/26人

対局・詰将棋・棋譜並べ・コンピュータを使った研究等、将棋に関するさまざまな活動を行っています。



能楽部
部員/9人

能楽部では、能のうち「素謡」「仕舞」を練習し、7月と12月にある定期発表会で披露しています。



経済学研究部
部員/35人

私たちに身近な経済をテーマにプレゼンテーションを行い、知識を深めながら楽しく活動しています。



落語研究部
部員/23人

年5回ある寄席に向けて日々稽古に励んでいます。学術文化祭では風流寄席を行う予定です。



歴史研究部
部員/26人

歴史に関する人物や出来事を日々研究し、その成果を学術文化祭や七隈祭の場で発表しています。



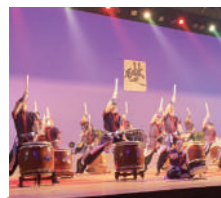
ユースホステル研究部
部員/30人

ユースホステル(YH)を利用した旅で得たものをまとめ、YHへの関心・知識・理解を深める部活動です。



薬学研究部
部員/100人

部員同士の交流をメインとしつつも、最大行事である九葉連の発表に向けての準備も進めます。



和太鼓部(鼓舞猿)
部員/79人

地域のお祭りやイベント、老人ホーム、幼稚園など、福岡を中心にたくさんの方に和太鼓を楽しんでいただいています。最近では、年2回海外演奏も行っています。



交響楽団
部員/65人

6月のプロムナードコンサート、12月の定期演奏会に向けた練習をメインに、依頼演奏等も行っていきます。



速記研究部
部員/20人

速記技術の習得・向上を目指して、また大会や検定での入賞に向けて、日々活動しています。



英文タイプ研究部
部員/20人

タイプライターを使用してタイピング技術を向上させる活動をメインとするほか、レクリエーションを通じて部員相互の親睦を深めています。



旅研究部
部員/43人

火曜日・金曜日の週2日、旅の振り返りや旅の作成を行います。旅本来の楽しみ方を追求しています。

学術文化祭

開催予定日
2020.06.22(Mon)~26(Fri)

開催場所
福岡大学内各所

学術文化祭の概要

学術文化部の各々が日頃の活動を披露・発表する場であると共に、広く学術文化部会について知ってもらう場として実施しています。

みどころ

各部の活動成果の発表はもちろん、著名な文化人の講演会も行います。そのほかにも多種多様な企画を準備しています。お楽しみに!

※開催時期等は変更になることがあります。詳細は福岡大学公式ウェブサイト等でご確認ください。

学術文化祭 音楽の夕べ

開催予定日
2020.06.28(Sun)

開催場所
FFGホール

音楽の夕べの概要

本行事は学術文化祭のフィナーレとして行います。ステージ発表や展示により、各部の日頃の成果を披露します。

みどころ

音楽系団体を中心に、日頃の活動成果をFFGホールで披露します。レベルの高い演奏・発表をお楽しみください。

学術文化部紹介



会計学研究部
部員/10人

毎週木曜日、簿記の勉強を中心に部員同士の親睦を深めながら楽しく活動しています。



経営学研究部
部員/53人

新規事業の企画や企業の分析などを行っています。全国大会でも毎年3位以内に入る実力があります。



法律研究部
部員/102人

政治班と討論班に分かれ、模擬裁判や大会に向けての勉強・準備を行う部活動です。



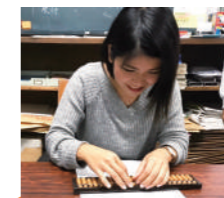
ゼミナル連合部
部員/12人

主に討論・プレゼンテーション大会の企画、運営を行っている部活動です。



英語研究部
部員/25人

ディスカッション・スピーチ・ディベートの3セッションに分かれて活動しています。



珠算研究部
部員/14人

西日本高等学校珠算競技大会に向けた読み上げの練習や問題作成などの運営準備、大会・検定に向けた練習を主な活動としています。



現在、福岡大学では募金活動に取り組んでおり、その趣旨にご賛同いただいた皆さま方から、任意のご寄付にもかかわらず、多大なるご支援が寄せられております。ここに深く感謝いたしております。ここに、ご寄付をいただきました皆さまのご芳名を掲載させていただきます。

福岡大学学生サポート募金へのご支援のお願い

福岡大学学生サポート募金は「本学の学生に対する全人教育の推進、豊かな学生生活の形成を支援する制度」として、在学生、卒業生、保護者、大学の相互の絆をより一層深めるとともに、本学独自の醸成を図ることを目指しております。

福岡大学学生サポート募金への寄付金を活用した支援事業により奨学金を受給した学生の声は次のとおりです。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

① 経済的困窮学生に対する支援

「家族の急変により、学生生活がどうなるか不安でしたが、今回採用されたことで、その不安が少し解消されました。残りの大学生活も一生懸命頑張りたいです。寄付者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。」(3年次生)

② 学生のスポーツ強化に対する支援

「福岡大学という素晴らしい環境や寄付などを通じて支援をしてくださる方々のおかげで東京2020大会を目指して練習に励むことができます。福岡大学の学生としての誇りを持ち、東京2020大会を目指して頑張りますので、今後ともよろしくお願いたします。」(2年次生)

創立85周年記念 福岡大学新室内プール(仮称)建設募金へのご支援のお願い

福岡大学新室内プール(仮称)は学生の保健体育科目、専門教育科目、課外教育活動はもとより、幅広い年齢層を対象とした教室、スポーツイベント開催などにより、地域や社会に貢献する場として後世の人々に永く愛される魅力的な施設となることを目指します。

プール募金概要

- 目標額 2億円
 - 寄付金額 個人/一口 1万円 (一口未満のご寄付もありがたく受けたいです) 法人・団体/一口の金額は特に定めておりません。
 - 申込方法 PCやスマートフォンなどを利用したインターネット募金、振込による申し込みが可能です。
 - 募集期間 平成30年7月~令和3年3月
 - 寄付者顕彰 寄付累計額が基準を満たした方には寄付者名を刻んだ寄付者銘板の設置や感謝状の贈呈などの顕彰をさせていただきます。
- 募金の詳細は募金専用ウェブサイトをご覧になるか、福岡大学財務部助成課までご連絡ください。

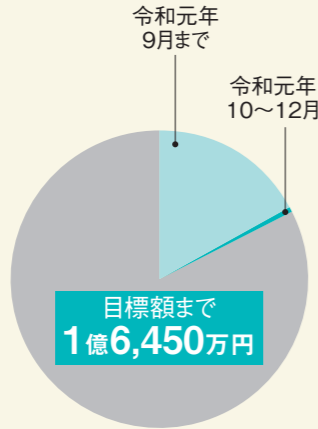
〈完成予想図〉



創立85周年記念福岡大学新室内プール(仮称)建設募金(掲載第6回)

寄付金受入状況(月別)

令和元年12月31日現在	
受入状況(円)	
令和元年9月まで	34,377,000
10月	130,000
11月	310,000
12月	680,000
目標額まで	164,503,000
目標額	200,000,000



寄付金受入状況(募金対象者別)

令和元年12月31日現在			
募金対象者	令和元年9月までの寄付金額(円)	令和元年10月~12月寄付金額(円)	寄付金累計額(円)
卒業生	3,242,000	90,000	3,332,000
在学生の保護者	534,000	110,000	644,000
職員・役員	4,260,000	900,000	5,160,000
企業等法人	26,261,000	0	26,261,000
その他	80,000	20,000	100,000
合計	34,377,000	1,120,000	35,497,000

福岡大学学生サポート募金(掲載第24回)

寄付金受入状況(使途別)

令和元年12月31日現在			
使途	令和元年9月までの寄付金額(円)	令和元年10月~12月寄付金額(円)	寄付金累計額(円)
入学前予約型奨学金	1,179,700	27,200	1,206,900
経済的困窮学生に対する奨学金	23,810,313	1,671,939	25,482,252
国際交流に関する支援	1,749,400	172,200	1,921,600
学生のスポーツ強化に対する支援	3,959,900	179,200	4,139,100
正課外教育及び社会貢献活動に対する支援	1,758,400	35,200	1,793,600
その他学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実に係る事業	44,825,409	150,000	44,975,409
合計	77,283,122	2,235,739	79,518,861

寄付金受入状況(募金対象者別)

令和元年12月31日現在			
募金対象者	令和元年9月までの寄付金額(円)	令和元年10月~12月寄付金額(円)	寄付金累計額(円)
卒業生	13,632,190	130,000	13,762,190
在学生の保護者	12,997,136	273,417	13,270,553
職員・役員	22,023,283	1,625,717	23,649,000
企業等法人	20,995,511	180,840	21,176,351
その他	7,635,002	25,765	7,660,767
合計	77,283,122	2,235,739	79,518,861



建設中の新室内プール(2020年3月現在)

- 卒業生
 - 秋山 泰世 様 (一万円)
 - 浅尾 康正 様 (一万円)
 - 関根 敏子 様 (二万円)
 - 河野 理恵 様 (五万円)
 - 演田 盛男 様 (一万円)
 - 匿名様 1人
- 在学生の保護者
 - 匿名様 2人
- 職員・役員
 - 匿名様 4人
- 企業等法人・その他
 - 黒瀬 秀樹 様 (一万円)
 - 森 美智雄 様 (二万円)
 - 大木 茂 様 (五万円)
 - 小野寺一浩 様 (五万円)
 - 加留部善晴 様 (五万円)
 - 岳 弘司 様 (十万円)
 - 中原 一 様 (十万円)
 - 山口 龍三 様 (十万円)
 - 米沢 利広 様 (十万円)
 - 服巻 圭亮 様 (四万円)
 - 清武 玲子 様 (三万円)
 - 志波澤 登 様 (二万円)

- 卒業生
 - 小林 敬明 様 (三万円)
 - 矢野 省吾 様 (二万円)
 - 青木 和幸 様 (一万円)
 - 白木 富行 様 (六万円)
 - 戸淵 義光 様 (六万円)
 - 匿名様 3人
- 在学生の保護者
 - 匿名様 3人
- 職員・役員
 - 匿名様 4人
- 企業等法人・その他
 - 門田 重幸 様 (一万円)
 - 黒瀬 重幸 様 (一万円)
 - 星乃 治彦 様 (十万円)
 - 森 美智雄 様 (三十万円)
 - 加留部善晴 様 (三十万円)
 - 中西 良子 様 (三万円)
 - 磯野龍一郎 様 (三万円)
 - 河村 正徳 様 (六万円)
 - 菊池 孝志 様 (三万円)
 - 佐藤 誠司 様 (三万円)
 - 里屋 眞澄 様 (三万円)
 - 志波澤 登 様 (二万円)
 - 津田 和穂 様 (三万円)
 - 富田 千里 様 (三万円)
 - 山村 昌次 様 (七十七万円)
 - 服巻 圭亮 様 (十九万九千四百円)
 - 榎本啓一郎 様 (二万円)
 - 小田 禎一 様 (二万円)
 - 瀧口 秀夫 様 (二万円)
 - 久我 秀一 様 (一萬五千円)
 - 奥村 年和 様 (一萬五千円)
 - 小原 一郎 様 (八万円)
 - 黒田 由美 様 (七万円)
 - 古賀 真吾 様 (二万円)
 - 都地 正範 様 (一万円)
 - 服部 八重 様 (一万円)
 - 藤田 昌樹 様 (一十四万円)
 - 松本 祐一 様 (一十四万円)
 - 本村 幸隆 様 (五万円)
 - 諸富 進一 様 (二万円)
 - 吉兼由佳子 様 (二万円)
 - 岡崎 明 様 (一万円)
 - 川野 耕 様 (三万六千円)
 - 坂上 謙二 様 (四万二千円)
 - 演田 弘志 様 (十万六千円)
 - 廣木摩理勢 様 (四万八千円)
 - 山川 稔 様 (五万円)

- 匿名様 12人
- 匿名様 3人
- 匿名様 2人
- 匿名様 2人

「学校法人福岡大学 募金のご案内」の訂正について(お詫び)

『福岡大学学園通信』第67号(2019年10月発行)に同封した「学校法人福岡大学募金のご案内」(払込取扱票)に誤りがございましたので、以下のとおり訂正いたします。

使途表内
建設募金 使途名
(誤) 3.福岡大学新体育館建設募金 → (正) 3.福岡大学新体育寮建設募金

また、払込取扱票をご利用の際は寄付金を払い込み金融機関に関らず、**切り取らずに4枚すべてを金融機関の窓口にご提出いただきますようお願いいたします。**
皆様には大変ご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます。

読み終わった本・DVD等で福岡大学をご支援ください。

福岡大学 古本募金

お申し込み・お問い合わせ先 福岡大学 古本募金

0120-29-7000 受付:9時~18時・365日

運営協賛:古本募金さしやぼん(嵯峨野株式会社)

【募金のご報告】

- ◎18人
- ◎88,699円
- ◎2,199冊 (486,098円)

※令和元年10月から12月まで ()内は平成30年8月から令和元年12月までの累計

学校法人福岡大学への寄付は

- 最大約50%の減税効果があります!
- 現金だけでなく本やDVDでもできます!
- インターネットでの申し込みなら24時間受け付け可能です!

News

令和2年度「福岡大学高田法曹育成基金」
奨学生に2人を認定

令和2年度の「福岡大学高田法曹育成基金」の奨学生に、野田尚輝さん(法曹実務研究科2年次生)と川原ひなさん(同1年次生)が認定されました。この奨学金は、本学の高田桂一名誉教授から、本学法科大学院生を対象とする給費奨学制度の創設を目的とした寄付によりできたものです。



News

新ウェブメディアでも情報発信

福岡大学では、新ウェブメディア「FUKUDAism(フクダイズム)」でも情報発信します。

在学生や卒業生の活躍、最先端の研究、高度な医療、地域や産業界との連携、国際交流など、カテゴリー別に分かりやすくお伝えします。ぜひ、「福岡大学(福大)らしさ」を感じ取ってください。

なお、ウェブメディアの新設に伴い、年に4回発行していた『学園通信』は年2回発行となります。

サイト名: FUKUDAism(フクダイズム)
「福大」と「主義・特性を意味する接尾辞(ism)」による造語
QRコード

第69号(通巻239号)令和2年5月7日発行
編集・発行:福岡大学広報委員会(企画部広報課)
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号 TEL:092-871-6631(代)
E-mail: fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp PDF版は 福岡大学学園通信 検索

News

福岡大学の新しいスローガンに
「Rise with Us」が決定

福岡大学の新しいスローガンに「Rise with Us」が決定しました。

「Rise with Us」には、学生、教職員、卒業生、キャンパス、そして地域社会が一体となって連動・拍動し、開かれた自由闊達な議論を通して共に成長・発展することで、大学の使命である、時代に即応しグローバルに貢献する教育・研究・医療の提供を目指し、「共にステップアップする」というメッセージが込められています。

News

『UNIVAS AWARDS 2019-20』の
各部門で表彰を受けました

2019年3月、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)が設立されました。222大学、34競技団体が加盟し、福岡大学も加盟しています。

2019年度の大学スポーツにおける競技成績や各取り組みを表彰する『UNIVAS AWARDS 2019-20』が3月27日(金)に行われ、本学は競技横断型の大学対抗戦「UNIVAS CUP 2019-20」で加盟222大学中、第9位にランクイン。九州地区では第1位の成績となりました。他にも、大会・プロモーションに関する取組部門で最優秀賞を受賞しました。



- 「UNIVAS CUP 2019-20」
・総合ランキング 第9位 ・九州地区 第1位
・大会・プロモーションに関する優秀取組賞
・最優秀賞 「地域連携推進センター及びサッカー部「ふれあいスポーツフェスタ2019 in 福岡大学」の取組」
・パーソン・オブ・ザ・イヤー
・優秀賞 米倉 英信選手(体操競技部)
・安全確保に関する優秀取組賞
・優秀賞 「学内スポーツ事故予防および、対応における多職間連携ネットワークの構築」

本誌『福岡大学学園通信』に関するご感想をお寄せください。より良い広報誌づくりのために、ご意見・ご感想などをお待ちしています。また、情報提供などありましたらお知らせください。

福岡大学名誉教授

長年にわたる功績を称え福岡大学名誉教授の称号が授与されました。

(2020年4月1日付)

Table listing honorary professors by department: 人文学部, 法学部, 商学部, 理学部, 工学部, 医学部, 薬学部. Names include 小林 信行, 岩倉 正博, 井上 伊知郎, etc.

定年退職者 (選択定年者を含む)2020年3月31日付

教育職員

Table of education staff: 教授, 准教授, 講師, 助教授, 助手. Lists names and departments like 人文学部, 法学部, etc.

※「福岡大学教育職員資格審査基準」第4条第7号適用

高校教育職員

Table of high school education staff: 校長, 教諭. Lists names and affiliation: 相良 浩文, 筒井 正二郎, etc.

事務職員

Table of administrative staff: 参事, 参事補. Lists names and departments like 人事部, 法学部事務室, etc.

教育技術職員

Table of educational technical staff: 技師. Lists names and departments like 工学部, 医学部.

医療技術職員

Table of medical technical staff: 技師. Lists names and departments like 福岡大学病院 臨床検査部, etc.

看護職員

Table of nursing staff: 看護師長, 主任看護師, 看護師. Lists names and departments like 福岡大学筑紫病院 看護部, etc.

(敬称略)